

JA XA かに星雲のX線観測 放出器、正常に作動

【大樹】独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)が18日に実施した「かに星雲のX線偏光観測」で、JAXAは同日夜、「X線の偏光度と偏光方向の測定で、取得できたデータ量は少なかつたものの、(X線)検出器が成層圏上空で正常に動作することを確認できた」と発表し

た。

今回の実験は山形大と大阪大、理化学研究所、JAXAが共同研究。大気球に同検出器をつり下げて放球した。発表文によると、同日午前3時58分に放球、約8時間後に大樹航空宇宙実験場東方約250kmの太平洋上で高度38・5kmに達した。3時間浮遊

した後、気球と切り離された検出器は、釧路管内白糠町沖合15km海上にパラシュートで落下した。

JAXAは「今後、観測データを詳細に解析し、より長時間の観測をさまざまなX線天体に対し実現していく」としている。

今回の実験で、今年度の第1次気球実験が終了した。第2次実験は8月中旬から1カ月間、4基の気球を放球する予定。

(北雅貴)